

ベトナム ライチ等の日本向け果実輸出が増加

[FreshPlaza](#) 2025年6月30日

ベトナムの日本向け生鮮果実輸出は、清浄で安全な農産物への需要の高まりにより、急速な成長を遂げている。ベトナムの駐日貿易参事官であるのター・ドック・ミン氏によると、日本はベトナムの農林水産物輸出市場として第3位にランクされており、2024年のそれらの品目の輸出額は40億ドルを超えている。

ベトナムの果実、特にライチ、マンゴー、ドラゴンフルーツ、リュウガンは、日本の消費者の間で人気を得ている。2025年のライチシーズンは、早期に輸出量100トンの大台を超え、総輸出量は200トンと予測されている。ベトナム産のライチは、日本のスーパーマーケットやオンラインプラットフォームで広く入手できる。

日本では品質や食品の安全性に厳しい基準があり、高級品だけが市場に浸透している。消費者の約70%は、透明なパッケージに入った認定商品により多くのお金を払うことをいとわない。ベトナムの果実は、これらの基準を満たすことで次第に信頼を得ている。

CPTPP(環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定)、RCEP(地域的な包括的経済連携)、VJEPA(ベトナム・日本経済連携協定)等の自由貿易協定により、90%以上の関税が削減または撤廃され、ベトナム産果実の競争力が向上している。その恩恵を受けるためには、生産者は生産チェーンを改善し、貯蔵に投資し、日本の輸入業者の95%にとって必要不可欠とされるタイムリーな配送を確保する必要がある。

在日ベトナム貿易事務所は、ブース出展、交流行事、東京で開催されるベトナムフェスティバル等の主要イベントへの出展等、貿易促進活動を通じて輸出業者を支援している。ライチについては、円滑な市場参入を確保するため、輸入業者との調整を早期に開始する。

高品質な輸入果実に対する需要が高まる中、今はベトナムの輸出業者にとって「黄金の時」であると同参事官は助言する。パートナーシップの構築には、加工、適切なパッケージング及び見本市への参加に注力することが不可欠である。品質と技術への投資により、日本での安定したプレゼンスを確保することができる。

出典: Nhan Dan